

平成29年度

自己評価報告書

平成30年3月



日本航空専門学校の沿革

1932年(昭和7年)	10月	・甲府在郷軍人航空研究会を母体とし、航空発動機練習所開設
1933年(昭和8年)	2月	・山梨県中巨摩郡玉幡村に40万平方メートルの飛行場を開設
1936年(昭和11年)	8月	・財団法人山梨航空研究会を設立し山梨飛行場を設置。サルムソン機を使用して、飛行士養成を開始。所有機数10機
1939年(昭和14年)	7月	・山梨航空技術学校設立認可を受ける
1940年(昭和15年)	4月	・熊谷陸軍飛行学校甲府分校が設置され、飛行場を共用。通信省航空局より200名、南方航空岡9326部隊より300名の整備委託生を収容、在校生2,000名となる ・卒業生は陸軍航空廠へ軍属として全員優先採用される
1942年(昭和17年)	1月	・国家の要請により山梨航空機関学校と改称 ・航空整備士養成の専門校となる
1945年(昭和20年)	8月	・終戦により閉校
1960年(昭和35年)	3月	・学校法人梅沢学園、山梨航空工業高等学校の設置認可を受ける(学校教育法第一条による高等学校)
1964年(昭和39年)	6月	・学校法人日本航空学園、日本航空工業高等学校と改称
1970年(昭和45年)	10月	・日本航空専門学校(各種学校)の設置認可を受ける
1974年(昭和49年)	1月	・日本航空大学校と改称
1976年(昭和51年)	5月	・日本航空大学校(専修学校専門課程)の認可を受ける
1988年(昭和63年)	4月	・日本航空学園千歳校(専修学校専門課程)開校
1992年(平成4年)	4月	・日本航空大学校の航空整備科、航空電子科、メカトロニクス科の3学科を日本航空学園千歳校と統合する
1994年(平成6年)	4月	・日本航空学園千歳校を日本航空専門学校と改称
1995年(平成7年)	4月	・運輸省航空局航空整備経歴認定施設となる
	4月	・空港技術科を新設する
	5月	・白老滑空場開設
	9月	・労働省技能講習指定教習機関となる
1998年(平成10年)	4月	・郵政省無線従事者養成施設となる
1999年(平成11年)	4月	・運輸大臣指定航空従事者養成施設となる
2001年(平成13年)	4月	・航空整備科を3年制に改編 ・航空工学科開設
2002年(平成14年)	4月	・航空システム科を新設 ・航空工学科を航空技術工学科に改称
2003年(平成15年)	4月	・白老町に日本航空専門学校白老校開設 ・空港技術科パッセンジャーサービスコース開設
2004年(平成16年)	3月	・北海道労働局長登録教習機関となる
	4月	・国土交通大臣指定航空従事者養成施設となる

2006年(平成18年)	4月	・白老校に空港技術科航空観光ビジネスコースを開設
2007年(平成19年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・一等航空運航整備士コース新設、テストコース指定 ・航空整備科を一等航空運航整備士コース、二等航空整備士コース、二等航空運航整備士コース、システムコース技術コースの5コースに改編 ・一等航空運航整備士基本技術課程が国土交通大臣指定航空従事者指定養成施設に指定される
2009年(平成21年)	4月	・航空技術工学科を航空整備科に統合
2010年(平成22年)	4月	・一等航空運航整備士(B767)専門課程が国土交通大臣指定航空従事者指定養成施設として指定をうける
2011年(平成23年)	6月	・空港技術科航空観光ビジネスコースを商業分野として国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)に改編認可をうける
2012年(平成24年)	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)新設
2015年(平成27年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科海外研修コースに改称 ・航空整備科システムコース廃止
2016年(平成28年)	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(空港技術科、国際航空ビジネス科)
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科(2年制)の名称を国際航空ビジネス科エアラインコースに改称 ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科エアライン・留学コースに改称
2017年(平成29年)	11月	キャビントレーニングセンター新設
2018年(平成30年)	1月	女子寮(アメリカホール)新設
	2月	文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(航空整備科)
	4月	白老キャンパスの国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスへ移転 学科定員を40名から80名に変更、男女共学とする

日本航空学園 建学の精神

日本航空学園の創立者「梅沢義三」は、建学の精神を『航空教育を通して愛国の精神を培う』と心に決め、昭和7年に「山梨航空機関学校」を設立しました。航空教育を行い、国家に有益な航空技術者を養成するにあたり、自分を愛し、家族を愛し、郷土を愛し、国を愛し、そして人類の共存に責任を持てる航空技術者であればこそ、愛機心を以て操縦や整備に当たることができるとの信念に基づいて教育を始めました。

二代目理事長「梅沢鋭蔵」は、創立者の建学の志を基に、校訓を定めました。

そして、現在の理事長「梅沢重雄」は、建学の志や先代が定めた校訓を基に、より豊かで優れた人間力を持つ人材の育成を目指して、「J-ship」という教育コンセプトを定めました。

校訓

- 一、礼節を尊び忍耐努力の精神を体得すべし
- 一、熟慮断行以て風林火山たるべし
- 一、至誠一貫信義を重んずべし
- 一、質実剛健文武両道に徹すべし
- 一、敬神崇祖以て伝統を承継し祖国を興隆すべし

・ **J** は、**JAPAN**（日本）、**JAA**（日本航空学園）の略称頭文字

日本航空学園で学ぶ日本人、外国人の学生、生徒を **J-ship** で育みます。

・ **S** は、**SPIRIT**（精神）、**SOUL**（魂）の略称頭文字

豊かな自然、良き伝統、良き慣習、そして家族や友人、先輩、後輩などすべてのモノ、人に対して感謝と慈愛の気持ちを忘れない人間としての健全な精神、魂を持つ人であれ。

【自由と規律】

航空機は大空を自由に飛ぶことができます。しかし、飛行するためには安全が最優先されなければなりません。

このため厳しい規律に従い、整備士やパイロットは、安全運航に努めています。航空技術者としての誇りは、大空を自由に飛ぶために、最大の努力ができる不撓不屈の精神を持っていることです。己の精神と技術により、国を世界を支えていることにあります。

規律は安全への第一歩、学生生徒が自由に夢を描き、語りながら、社会人としての礼節、そして、生き方を学びます。

【想像と創造】

想像しなければ創造出来ません。人間の行為は全て想像→行動→創造と進みます。想像は願望、要求であり出発点、計画、目的、目標です。

生き甲斐を感じ充実した時間に満たされた自分を想像することにより、自分の精神が出来、創造活動が活発化し、魂が完成していきます。

心の態度で成功が決まるのです。

・ **H** は、**HEART**（心）、**HEALTHY**（健全）の略称頭文字

美しいものは美しいと感じ、良いと思えるものには素直に感動し、喜怒哀楽には正直で、他人を常に思いやることのできる純粋で、きれいで、奥深い心、感性を持つ人であれ。

【共感共創】

全国そして世界から集う学生生徒は一人一人が皆素晴らしい輝きを秘めた原石です。

ダメだ、出来ないなどマイナスの言葉を全て一掃し、出来る、可能だ、好きだ、嬉しい、楽しい、美しいなどプラスの発想で心を磨きあげるのです。

教職員も学生生徒も一緒になって学園全体を黄金で輝く愛のベールで包み、潜在する能力を開発し、学習やクラブにとともに取り組み、行事を創り試合やコンテストにチャレンジし、喜

びや成功を感じ、そして感謝して共に涙を流す人間的な心を育みます。

【健全性の育成】

健全とは心身共に健やかであることを意味していますが、健全な娯楽、健全な社会、健全な家庭、健全な学校があつてはじめて健全な青年に育成されます。学校と保護者は協力し合い、外部からの感情や刺激による衝動により言動が支配されることなく、分別や筋道をわきまえ冷静さを忘れず自分と所属する集団が正しく 保持できる状態を保てる公德心と健全性を育みます。

・ I は、IDENTITY (自己) の略称頭文字

母国と自分に誇りを持ち、自己の真の確立を実現するため、自分ならではの長所、個性をしっかりと伸ばしていく忍耐、努力を惜しまない人であれ。

【長所伸展】

人間は誰でも得意、不得意があります。これは個性です。不得手なものを解消することに囚われ過ぎると時間と労力がかかり却って自信喪失になります。得意なもの、好きなことを拡大することにより、短所はカバーされてしまいます。万人全て大いなる可能性と能力を秘めています。自己を信じることです。

【国際理解】

学園建学の地、山梨県甲斐キャンパスの万国旗掲揚塔に次の文章があります。

「大空は世界をつなぐ 友愛は平和を築く 海外から集いし若者達よ 全国から集いし若者達よ大地に立て 空を舞え」本学園にはアジアをはじめ世界各地からの留学生が在学しています。人種、言語、宗教、政治的信条、軍事力、経済力を越えて人類愛という友情で結びつき、共に苦しみ同じ喜びを分かち合える人間性 を育みます。航空人はエアラインで世界を結ぶ重要な使命を持っています。

それには、常に自国を意識して郷土愛、祖国愛を育み、共に助け合いそれぞれの祖国の繁栄に努めることの出来る大きな心の器を持った人間性を育むことが大切です。

・ P は、POWER (力) の略称頭文字

守るべき自分の夢、母国の未来、愛すべき家族の幸福を守るために必要な知力、体力を、不屈の志を持って鍛え上げていく文武両道に徹した力のある生き方のできる人であれ。

【目標に強く進む】

航空機は常に目的地に向い自差や偏差の修正を行い横風に流されず、向い風にも負けず、中間目標を捕捉しながら飛行し続ける強いパワーが必要なのです。そして着陸まで気を抜かず安全に留意するのです。学園は常に本物に触れ、体験しながら常に目的を忘れず意識し、目

標に向い進むことを大切にしています。これが、学習することの基本となります。そして、最終目的を絵や写真のようにいつもイメージすることが大切です。

【強運となる】

気運を背負ってる人間には強いエネルギーがあります。そのエネルギーがさらに強い運を呼び込むのです。運気とはエネルギーです。引力のように其のエネルギーに引かれて幸運の女神はドアを開きます。成功を自分の力量と自惚れない、失敗を運や人のせいにしないで、全ての結果を絶対的肯定して感謝し、またチャレンジする度に運が強くなってパワフルな人生が歩めるのです。

日本航空専門学校のブランドプロポジション

「自由と規律」の人間教育と専門教育を通して感性と知性を
磨き社会に役立つ人財を育成する

■平成29年度 自己評価について

学校法人日本航空学園日本航空専門学校は、昭和63年に開校し、以来、航空業界へ有益な人材を多数輩出して参りました。充実した教育環境の中で実習・訓練を重ねた学生たちの就職率は、平成24年度以来100%を記録しています。今後も企業のニーズに即して教育環境の整備に努め、社会の発展に貢献できる人材の輩出に努めていきます。

本校では、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、自己評価に取り組んでおります。より良い自己評価を目指して教職員並びに評価委員が真摯に取り組み、現状の把握、課題及び今後の方向性を協議して参りました。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

1、対象期間

平成29年4月1日～平成30年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「自己評価委員会」を設置し評価を行っています。
- (2) 評価は「専門学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果は、状況および課題と改善についてホームページで公開します。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しています。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■ 1 教育理念・目標

評価項目	評価(4～1)
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
学校における職業教育の特色を示しているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4

状況および課題と改善策

- *教育の理念・目標においては建学の精神をもとに、校訓・Jship・ブランドプロポジションなど具体的かつ明確に定め、学科ごと企業との連携を図り社会に求められる人材育成を行っている。
- *社会経済のニーズを踏まえ、平成30年度より国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスに移転し定員を40名から80名に増員し、男女共学とした。
さらに本格的なモックアップ施設（キャビントレーニングセンター）を新設し、より実務に即した実践教育を行い航空業界の人材不足、即戦力になる人材の育成により、本校の特色を示している。
- *教育理念、人材育成像などの周知は本校だけでなく学園全体で共有し、SNSなどにより最新の情報を発信している。また隔月で授業、ボランティア、学校行事など、学校での様子をAVIATION NEWSとしてまとめ保護者だけでなく、高等学校や資料請求者にも送付している。

■ 2 学校運営

評価項目	評価(4～1)
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

状況および課題と改善策

- *航空業界に勤める人材不足が続く中、本校は優れた人材を育成するために、事業計画に沿って施設・設備の充実を図り、学生の教育環境を改善している。

- *運営組織については、キャンパス統合により全学科同じキャンパス内に設置し効率的に運営を行っていく。
- *各部署をまたいでの委員会組織を再構築して学生も同じ委員会をつくり、教員と学生による円滑な学校運営が行われている。
- *教育活動に関する情報公開については、各種行事活動（イベント・ボランティア等）を始め、就職状況、学校近況報告などを随時更新公開されている。
- *業務の効率化については、クラウドを利用したグループウェアシステムを導入して3年目になり、学習効果を上げると共に授業準備など効率を図っている。

■ 3 教育活動

評価項目	評価(4～1)
教育理念に沿った教育課程の編成・方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における先端的な知識・技能的な修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *教育理念に沿った人間教育を積極的に進め理事長による講話を定期的実施している。
- *e-ラーニングを使用し予習、復習を確実に行うことで教育到達レベルを上げ、月末に実施する確認試験で評価し、レベルチェックを実施している。また、電子黒板等の増台、各教室のWi-Fi化を進めさらに教育の効率化を図る。
- *カリキュラムは学科ごと体系的に編成し関連企業との連携を密にとることでキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの見直しを進めている。
- *関連企業の現場から講師を招き実技・実習等を定期的実施すると共に、インターンシップで実践的な職業教育を行い資質向上に向けて取り組み認定要件に合わせ、企業との

連携を体系的に実施している。

- * 語学教育の向上に努め国際航空ビジネス科では英語のみならず韓国語、中国語教育にも力を入れており国際的感覚を身に着けている。航空整備科、空港技術科においてもネイティブの教員による英会話教育を実施して充実を図っていく。
- * 授業評価については研究授業を定期的に行い、授業内容についての意見交換や研修を実施し授業に反映している。
- * 資格取得のため、授業だけではなく資格試験に対応して放課後特別講習などを実施している。
- * 教職員の研修は指導法、教育理念、安全・防犯等について計画的に行っている。
平成29年度は教員研修において全教職員に対し AED 講習を実施した。実務についても定期的に関連企業の特別講習を開催し資質向上を図り研修等にも参加している。また、事務局及び給食課においてもホスピタリティー研修、学生への対応などの研修を行っている。

■ 4 学修成果

評価項目	評価(4～1)
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

状況および課題と改善策

- * 国際航空ビジネス科は8年連続、空港技術科、航空整備科は6年連続就職率100%を維持している。近年、採用試験1社目での合格率高く、企業の求める人材を輩出している。本校の特色である人間教育と実践教育の充実を更に進め100%の維持に努めていく。
- * 資格取得率の向上のため学習の習慣化が必要であるためe-ラーニングシステム、電子黒板の導入により予習、復習の徹底及び進捗状況の把握を図り学習効果を向上させていく。
- * 退学率は年々低減しているが、今後も外部カウンセラーと担任の連携を深化させ、メンタルヘルスのケアときめ細かな対応をする事により、更なる低減を図っていく。
- * 航空業界の裾野拡大のための各種取り組みに卒業生のOB、OGが参加し、業界の魅力や自身の業務内容を紹介する機会を設けている。OB、OGの参加により裾野拡大だけでなく、卒業生の近況把握や企業との連携を深められる。
- * 就職先企業を訪問し、卒業生の状況やニーズなど情報交換を行い教育に反映させていく。

■ 5 学生支援

評価項目	評価(4～1)
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

状況および課題と改善策

- * 担任制度を導入し、毎日のショートホームルームで全体連絡や個別相談を受ける時間を設け、学生の悩み事や学業・進路相談を親身になって対応している。学生の状況を教員間で共有し担任だけでなく多くの教員で対応に当たっている。また、外部のスクールカウンセラーによるメンタルな相談にも応じている。
- * 養護教員2名が常駐し、学生の健康面でのサポートや学生の健康診断の結果から個別にアドバイスを行っている。新たに安全衛生委員会が発足し、健康管理・安全管理の徹底を学校全体で取り組んでいる。
- * 課外活動では、体育会系14部門、文科系4部門が活動しており、北海道私立専修学校各種学校連合会札幌支部主催の各種大会、社会人や他校との交流試合などにも参加している。
- * 保護者には、学生個々に出席状況や成績通知を郵送するとともに、学生の勉強や就職状況、校内行事等の情報を提供する「アビエーションニュース」を同封し、学生生活などの情報を提供している。
- * 社会のニーズを踏まえ、国内エアラインより出向している教員から最新の企業・業界情報を職員朝礼や授業を通じて教職員、学生へ周知するとともに、企業の方から講話を頂き、企業風土や企業が求める人材像について説明を頂いた。
- * 高等学校との連携では、募集担当者だけでなく、教員も積極的に高校訪問を行い、情報交換や高校卒業生の近況・就職状況の報告を行っている。また、高等学校から本校へのインターンシップも積極的に受け入れを行っている。

■ 6 教育環境

評価項目	評価(4～1)
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4

学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
防災・防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

状況および課題と改善策

- *大型機モックアップを備えたキャビントレーニングセンターを新設し、より実践的なCA業務やGS業務の教育を行っている。その他、多くの実習機、空港支援車両を保有し、広大な実習スペースを使用し効果的な教育を実施している。
- *校外のインターンシップでは、職業実践専門課程賛同企業のご協力の下、効果的に進め大きな成果を収めている。今後も仕事に対する意識・技術の向上、自己管理についても行い、社会人として必要な人間性の向上に務めていく。
- *学生の自主的学習においては寮内に個人で学習できる自習スペース及びグループ学習のできる自習室を備えるとともに、e-ラーニングの導入により自宅学習（予習・復習等）に対する習慣付けや環境作りを行っている。
- *防災については、事件・事故・火災等が発生した場合に組織的に対応できるよう、報告システムのガイドラインを定め、J-ALARTに対応した防災マニュアルを作成し、防災に対して備えている。また、毎年千歳消防署員の立ち合いの下で防災避難訓練や消火訓練を実施しており、避難の時間、姿勢について高評価を受けている。
合わせて、災害時に全学生が最低でも3日間生活できる飲用水、食料、医薬品、救護品、発電機も備えている。
- *防犯については、寮監が24時間体制で寮に常駐し、寮内・構内の見回り・点検を実施している。また、夜間については校内には人感センサー、寮内には防犯カメラも設置し部外者の侵入等を防ぐ対策を行っている。

■ 7 学生の受け入れ募集

評価項目	評価（4～1）
学生募集活動は、適正に行われているか	3
学生の募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

状況および課題と改善策

- *平成30年度新入生は僅かに募集定員を下回った。次年度は募集定員を充足させるため、毎週幹部による募集会議を開催し、募集部と各学科の連携の強化をはかっている。
- *定期的な高校訪問や、進路相談ガイダンス・航空業界の仕事に就くための職業説明会の開催、航空業界の裾野拡大を目的として北海道内及び全国の空港で「そらゼミ」イベントを開催し、各企業とのコラボレーション企画を実施するなど、従来行っている活動も継続して行っている。

- * 高等学校だけでなく、小学生や中学生のインターンシップや学校見学も積極的に受け入れを行い、低年齢層から航空業界に興味を持っていただける仕組み作りも行っている。
- * 高等学校の先生方を対象とした学校見学会を行い、進路相談に来た生徒へのアプローチがしやすい環境作りを行っている。

■ 8 財務

評価項目	評価（4～1）
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

状況および課題と改善策

- * 学校法人として、教育活動の充実および永続という目的を達成するため、内外の要因に左右されない財務基盤の充実と強化に重点を置いている。
- * 現状における財務基盤については、学生数が増加傾向にあり、今後教室および実習室の不足も考えられることから、中長期計画に基づき、より効率的な教育活動に資するための増改築計画を開始している。
- * 経費支出については、予算管理を徹底し、募集活動の見直しや中期計画に基づく合理的支出を実施し、常に経費の減額に努め、所有する資産の見直しや事業の見直しを行い、財務基盤を強化していく。
- * さらに財務基盤を安定させるため、一定数の入学者を確保し続けるとともに、退学・除籍等の対策を強化して改善を図り、一定水準の学納金収入を確保する。
- * 私立学校法および寄付行為に基づき、選任された外部監事が財務会計監査を実施しており、監事は事業報告書により財務の概要を把握し、計算書類により会計監査を実施し、監査報告書を作成しホームページで情報公開を実施している。

■ 9 法令等の遵守

評価項目	評価（4～1）
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

状況および課題と改善策

- * 学校教育法および同法施行規則の改正により、自己点検・自己評価および公表が義務付けられたことで、本校では各関係者が自己点検の位置づけ・目的・方針を確認し、自己

点検・自己評価を実施しており、毎年開催している学校関係者評価委員会において、自己点検結果を報告し、それに対する学校関係者委員会からの評価をまとめた報告書を作成し、課題の改善に取り組みホームページに公開している。

■ 1 0 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価（4～1）
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

状況および課題と改善策

- * 道徳訓育の一環としてボランティア活動を学校全体で奨励し、社会貢献を体験させ様々な方との交流を図り、コミュニケーション能力や奉仕の心を養う貴重な教育環境の一つと考えている。イベントボランティアや市町村、学校関係の活動にも幅広く参加している。
- * ボランティア参加数は、年々増加し各団体から高い評価を受けている。
- * 地域貢献においては千歳航空少年団や各ボランティア団体、チャリティ団体へ校内敷地や体育館の使用の他、トラック、机、イス、テントなどの貸出も行っている。
- * ボランティアの中には小学生を対象とした「こどもお仕事体験」も含まれており、CA体験、グランドハンドリング体験、パイロット体験、整備士体験のブースを設け、航空業界の裾野拡大にも努めている。

■ 1 1 国際交流

評価項目	評価（4～1）
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4
海外留学に対する適切な体制が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- * 併設の高等学校に留学生が多数在籍しており本校への進学も増えている。
学生課内に留学生担当を配置しており、入国管理局の手続きの研修も受講しており教員が学生の書類に関しての代行業務を行い、常に支援体制を確保しており、留学生も日本

の企業に内定している。

*中国語授業数を増やし HSK（中国語検定）を受験させている。

*韓国への研修も実施しておりエアラインの協力を得て現地学生との交流会も実施している。

*国際航空ビジネス科では、平成 29 年度よりニュージーランドに加えオーストラリアでも留学プログラムを実施し、現地の語学学校及び航空専門学校において、語学研修プログラム、客室乗務員の機内サービス、空港カウンターの実習を実施。この間は、フルホームステイによる安全面・健康面共に体制を整えており、日本からは担当教員によるオンラインサービスを使ったサポートなども行っている。

*全ての学科の学生を対象にして、アメリカ合衆国ハワイ州、マルタ共和国において夏季休暇を利用して実施できる 2 週間～4 週間の短期語学留学プログラムも取り入れており、4 月に説明会を開催し、異文化交流、語学力の向上をはかっている。